

(4) 石油精製業

13 / 12 14 / 13 ◎ 伸び率 10%以上 ● 伸び率 0 ~ ▲ 10%
 : 天気図マーク: ◎ ◎ ○ 伸び率 0 ~ 10% ● 伸び率 ▲ 10%以下

1. 企業経営動向

(1) 需要

・平成13年度の需要は、ガソリンが58,821千KLと前年度比+0.8%と増加したものの、内需の低迷、暖冬の影響により、ナフサ45,952千KL(前年度比▲3.6%)、重油56,899千KL(同▲6.5%)、軽油40,957千KL(同▲1.9%)、灯油28,499千KL(同▲4.8%)と減少したため、燃料油全体では、236,123千KLと前年度比▲2.9%の減少となった。

・平成14年度の需要は、ガソリン(59,372千KL, 前年度比+0.9%)、灯油(28,891千KL, 同+1.4%)は増加が見込まれるものの、ナフサ(44,596千KL, 同▲3%)、重油(53,564千KL, 同▲5.9%)、軽油(40,133千KL, 同▲2.0%)は減少が見込まれることから、燃料油全体では、231,424千KL(同▲2.0%)と減少が見込まれている。

(2) 設備稼働(平成13年度)

・常圧蒸留設備(許可ベース能力): 498万B/D

・同 設備稼働率: 81.0%(前年度比: 1.8ポイント増)

(3) 企業収益

精製・元売主要企業の経営動向(大手5社、連結ベース)(単位: 億円、%)

	平成12年度	平成13年度	平成14年度(予想)
売上高	117,400	118,653	117,300
経常利益	2,557	2,222	2,570
純利益	1,595	487	1,210
経常利益率	2.2	1.9	2.2

・平成13年度決算において、売上高は対前年度比1.1%の増加となった。

経常利益は有利子負債削減による支払利息の減少等により総じて改善されてはいるが、前年度に行った棚卸資産の評価方法変更による増益の反動により、減益となった。

・平成14年度業績予想は、精製費、販売費のコスト削減、有利子負債の削減を引き続き行うほか、減損会計等による損失処理が一段落することから、経常利益、純利益とも各社増益を見込んでいる。

(4) 財務

平成13年度の精製・元売大手6社(連結ベース)の有利子負債残高は、42,084億円と、前年度に比し10,096億円の減少となっており、平成14年度においても引き続き削減を行い、財務体質の強化に取り組む方向。

2. 設備投資動向

(1) これまでの設備投資の推移

石油産業の設備投資は、昭和62年度から順次実施されてきた精製設備許可の弾力化、SS建設等の規制緩和等に加え、内需拡大とも相俟って平成元年度3千億円台から平成7年度には5千億円台へと推移してきた。

しかし、平成8年度以降は減少を続け、平成12年度では9百億円台にまで減少している。

(2) 平成13年度設備投資見込み

平成13年度設備投資見込みは、1,293億円で、対前年度比+345億円(+36.4%)と大幅な伸びとなっている。これは、生産能力増強関係の設備投資があったことによる増が大きな要因で、その他、セルフSSの利用者増を反映した設備投資増も要因の一つとなっている。

(3) 平成14年度の設備投資計画

平成14年度の設備投資計画については、既存設備の維持補修・更新を始め、生産能力増強投資も増加しており、また、環境保全投資も増額が計画されていること等から、平成13年度（見込み）に比べ、42.9%増の1,848億円を見込んでいる。

なお、情報化投資については、管理部門の効率化、生産の効率化等を中心に行われているが、ほぼ前年度並と見込んでいる企業が過半を占めている。

3. 長期資金調達・運用動向

設備投資所要資金については、ほとんどの企業が減価償却による内部資金の範囲内で手当するよう計画されており、資金調達については借入金を返済し、有利子負債の削減を図る傾向にある。

(グラフ1：設備投資の前年度比の推移)

